

主役にする灯り

ワンルームに住む人が増えています。しかし、ワンルームリビングという一つの空間に様々な家具を置けば、せつかくの大きな空間はなんとなく雑多になり、狭く感じてしまいます。そこで、壁の中に様々な家具と照明を埋め込み、使う時に壁の埋め込み家具を開くことで、1つの意味だけを照らす仕組みを提案します。”使うところを照らす=使う部分以外を消す”ことで、大きなワンルームを様々な意味を持つ空間に変化させます。使うところだけが照らされることで、主役になり、照明の柔らかい光とともに現れ、使わなくなったら消えていく、ワンルームリビングを、照明というエレメントだけで、多様に広く使う計画です。



CONCEPT IMAGE



少しだけ開いて間接照明に。他の空間を引き立てる脇役にもなります。

開く大きさを調整します

中に物を入れると、光と共鳴し、灯りの色が変わります。

全て開くと、大きな空間の一部が照らされ、その部分がリビングの主役になります。

内壁と照明の間に薄いクロスを入れることで、クロスが後ろから照らされ、部屋のアクセントになるので、いつでも簡単に模様替えが出来ます。

壁の棚を少しだけ開いて、間接照明にしたり、開く大きさを変えて共鳴させて一つの空間を彩ったり、開く大きさによって、光の量が変わり、部屋の中の主役と脇役が明確になります。使うところだけ全て開けば、大きなリビングの一部だけが浮き彫りになり、おおきなリビングに一つの空間が現れます。また、全ての棚を少しだけ開くと、リビング全体が柔らかい間接照明によって照らされ、他の空間がすべて脇役となることで、リビング空間が主役になります。

Color

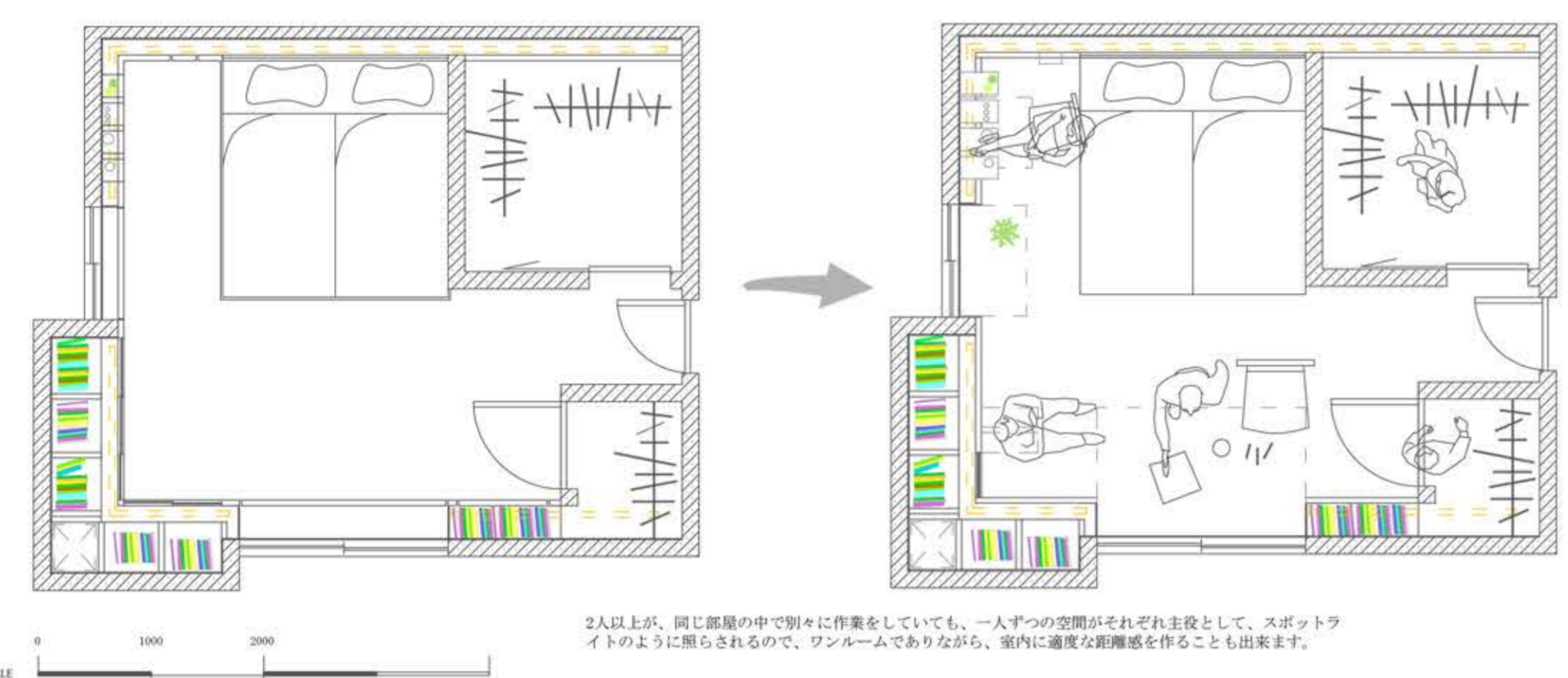


照明と家具を壁に埋め込みます。

使おうとする動作によって家具が現れ、そこがスポットライトのように照らされます。

単に主役にするだけでなく、壁の家具を開く角度によって、空間の存在感も変えることが出来ます。

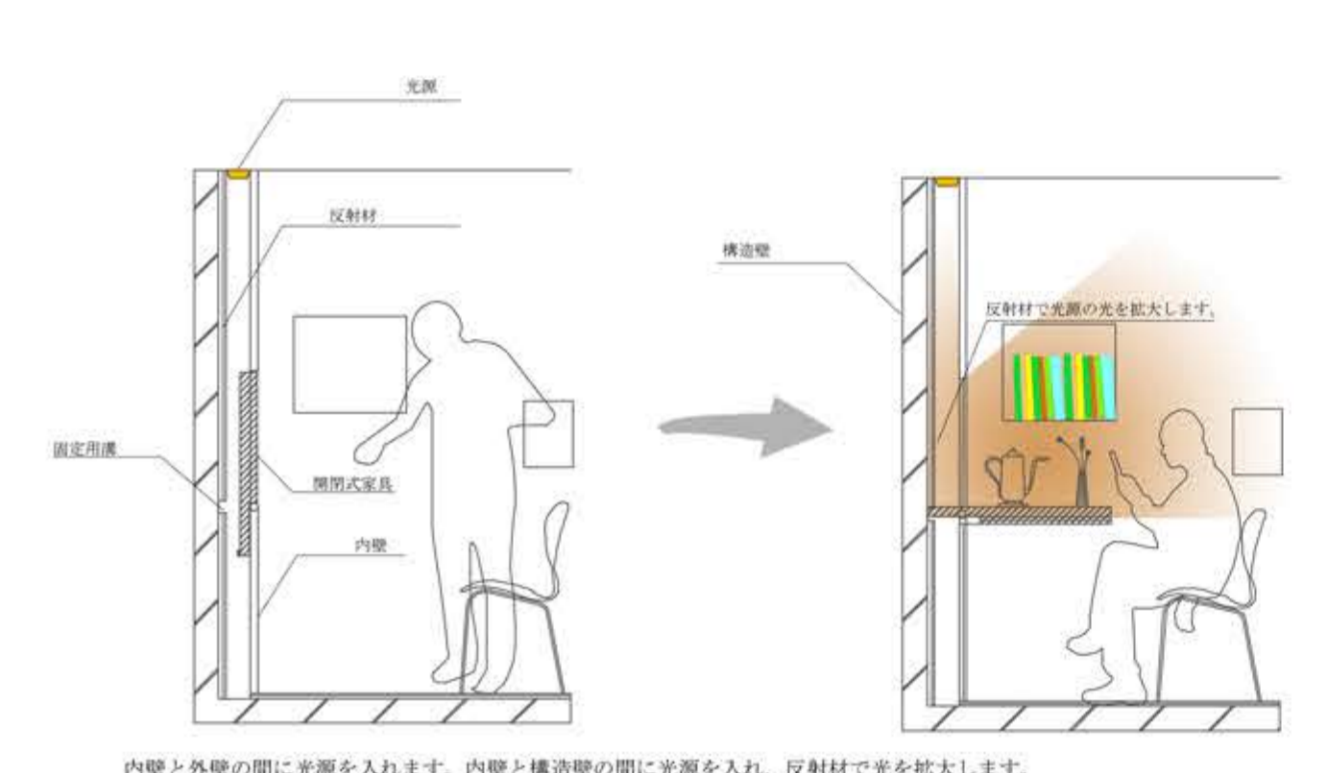
PLAN S = 1 / 50



SCALE 0 1000 2000

2人以上が、同じ部屋の中で別々に作業をしても、一人ずつの空間がそれぞれ主役として、スポットライトのように照らされるので、ワンルームでありながら、室内に適度な距離感を作ることも出来ます。

SECTION - DITAIL S = 1 / 25



内壁と外壁の間に光源を入れます。内壁と構造壁の間に光源を入れ、反射材で光を拡大します。



照明と壁との間に薄いクロスを貼り、そのクロスの模様を照明で強く照らすことで、他の壁に影を映し、いつもと違う部屋に模様替え・・・♪



人工照明だけでなく、外の灯りを利用することで、自然の灯りが作り出した場所で作業をしたり、お茶を飲んだりできます。